

Q1 スコアの数え方は?

テニスの試合でのスコアの数え方は、他のスポーツに比べて少し複雑な部分があります。同じラケット系のスポーツである卓球やバドミントンでは、1ポイントを「1ポイント」と数え、そのポイントを積み重ねると「ゲーム」になります。卓球では11ポイントで1ゲーム、バドミントンでは21ポイントで1ゲームです。通常は3ゲームマッチで、2ゲームを先に取ったほうが勝ちです。

一方テニスでも、「ポイント」を積み重ねると「ゲーム」になるのは同じですが、さらにゲームを積み重ねて「セット」を取ることを目指します。一般的なテニスの試合では4ポイントで1ゲーム、6ゲームで1セットとなります。このようなスコアの方式になった理由は定かではありませんが、1ゲームごとにサービスを打てるプレーヤーが変わることから、このようになったのかもしれない。また、ポイントの数え方も他のスポーツと異なります。1ポイントを「1ポイント」と数えず、1ポイント目を「フィフティーン (15)」、2ポイント目を「サーティ (30)」、3ポイント目を「フォーティ (40)」と数えていきます。同点になった場合は「オール」をつけ、「フィフティーンオール (15-15)」と数えます。さらに「40-40」はフォーティオール、ではなく「デュース」となります。

以上の点を図1にまとめましたので、参考にしてください。テニスのスコアの数え方は独特ですが、これもテニスの文化であり、万国共通です。是非覚えてください。

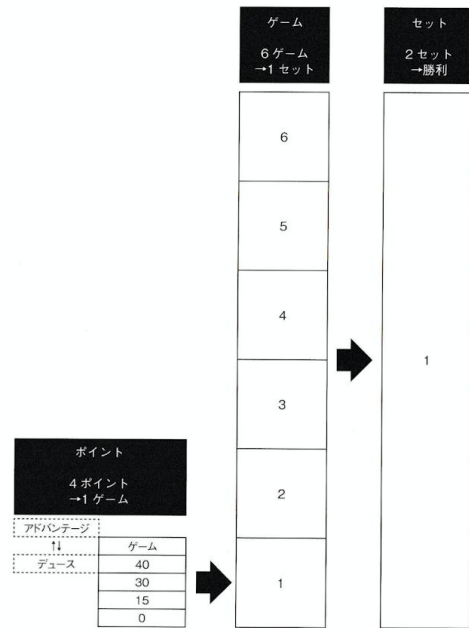


図1 テニスのスコアの仕組み

Q2 試合の進め方は?

テニスの試合には1人対1人で行うシングルスと、2人対2人で行うダブルスがあります。ここでは、シングルスとダブルスに共通する試合の進め方について、シングルス为例として解説します。

試合を始める前に、どちらのプレーヤーのサービスから始めるかを決めます。決め方は正式にはコイントスで行いますが、一般的にはラケットを用いたトスで決めます。トスに勝ったプレーヤーはサービスから始めるか、どちらのコートから始めるかを選択できます。トスに負けたプレーヤーは、トスに勝ったプレーヤーが選択しなかった項目について選択することができます。

サービスを選んだプレーヤーのサービスから試合が始まります。ゲームの1ポイント目のサービスは右サイド (デュースサイド) から始めます。1ポイント目が終わったら、次は左サイド (アドサイド) からのサービスでポイントを始めます。このように1ポイントごとにサービスのサイドが変わります (図2)。

1ゲームが終わったら、サービスを打つプレーヤーが交代します。再び右サイドから1ポイント目を始め、どちらかのプレーヤーがゲームを取るまで続けます。

また、太陽や風の影響をできるだけ公平にするために、奇数ゲームが終わった時点でコートチェンジをします。つまり、コートチェンジは1ゲーム目終了後、3ゲーム目終了後、5ゲーム目終了後、といった具合に行います。

一般的な試合では1セットが一つの区切りになるので、上記のよう

に試合を進めて、どちらかのプレーヤーが6ゲームを取るまで続きます。この際、ゲームカウントが5-5になることがあります。テニスのスコアでの勝利の原則は「2つの差をつける」ことにあるため、5-5になった時は、2ゲームの差をつけるまで続くことになります。しかしこの方式では2ゲームの差がつくまで延々と試合が続く可能性があることから、6-6になった時はタイブレークゲームが採用されることが一般的です。

タイブレークは、2ポイントの差をつけて、7ポイントを先取したプレーヤーが勝利となります。そのセットの最初のゲームでサービスをしたプレーヤーのサービスで、右サイドから1ポイント目を行います。その後は2ポイントずつサービスを交代しながら、どちらかのプレーヤーが7ポイントを取らざるまで続けていきます。

正式なテニスの試合はこのように進めていきますが、1セットを行

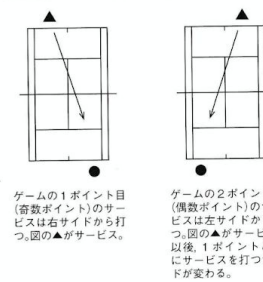


図2 シングルスにおけるサービスのサイド

うだけでも時間がかかります。そこで授業で試合を行う際には、例えばタイブレークだけを行う、「ゲーム」と「セット」を省略して10ポイント先取で行う、1ゲームごとに相手を変える、など多くの生徒がたくさん試合を経験できるように進め方を工夫する必要があります。また、団体戦の方式で進めることも一つのやり方です。5～6人を1チームとし、1ポイントごとにプレーヤーを交代していくといった方法も、多人数で行う授業の際には有効と言えます。

Q3 ダブルスの試合の進め方は？

ダブルスは2人のペア同士で戦う試合の方法です。Q2で紹介したシングルの進め方とほぼ同じですが、サービスとリターンに関して気をつけることがあります。

1ゲームごとにサービスを相手と交代することはシングルと同じです。ダブルスでは2人のペアで行うため、サービスもペアで交互に打つことになります。例えばA・Bペア対C・Dペアで試合を行うとします。第1ゲームがAのサービスだったとしたら、第2ゲームはCか

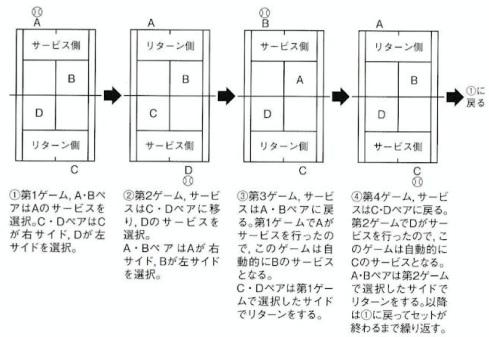


図3 ダブルスにおけるサービスの順番とリターンのサイド

Dのどちらかのサービスゲームになります。続く第3ゲームはB、第4ゲームは第2ゲームでサービスを打たなかったプレーヤーのサービスとなります。

またリターンについては、リターンを打つサイドを最初に決めたら、1セットの間はそのサイドでリターンを打つことになります。先ほどの例で説明すると、第1ゲームのAのサービスの時、Cが右サイド、Dが左サイドに入ったとしたら、そのセットの間はCが右サイドで、Dが左サイドでリターンをします。同じく第2ゲームになったら、AとBはどちらのプレーヤーがどちらのサイドでリターンするかを決めます。このようにリターンのサイドおよびサービスの順番については、1セットの間は変更せずに進めます。2セット目に入ったら、サービスの順番もリターンのサイドも変えることもできます。図3を参考に、順番を正しく覚えてください。

また、ダブルスは男女混合で行うこともでき、ミックスダブルスと呼ばれ、大会の正式種目にもなっています。様々なプレーヤーとペアを組んで試合ができるダブルスは、コミュニケーションツールとしても非常に有益です。試合が終わったら、対戦相手と自分のペアと握手をし、お互いの健闘を讃え合しましょう(図4)。



図4 試合後は対戦相手、パートナーと握手をして、お互いの健闘を讃え合しましょう。

Q4 試合の組み合わせの作り方は？

一般的なテニスの試合はトーナメント戦で行われます。トーナメント戦は勝ち上がりで進むことから、優勝を含め成績が明確になります。一方で、1回戦が終わった段階で参加者の半数が試合を終えてしまうこと、トーナメントのどの場所に入るかによる運の要素も高い、といったデメリットもあります。

リーグ戦の形式で行われることもあります。リーグ戦は参加者の試合数を確保できる利点がありますが、大会全体での試合数は多くなります。全ての試合を終えるまで時間がかかる、消化試合が発生する可能性がある、というデメリットもあります。

テニスは個人スポーツですが、団体戦(チーム戦)も行われます。団体戦は対戦の形式(例えばダブルス2試合とシングルス3試合など)を決めた上で、チームの構成メンバーがそれぞれの試合を行い、合計の勝敗でチームの勝ち負けを決める方法です。通常は個人で戦う試合をチーム全体で戦うため、一つ一つの試合が盛り上がることとなります。一方で、チームの勝敗が決まるまでに数試合を要するため、団体戦も時間がかかる試合の方法です。

授業で試合を行う際には、Q2でも解説したように、団体戦を取り入れると生徒も興味を持って取り組むようです。チームの勝敗を争うことになるため、自分の試合だけでなくチームの他のメンバーの試合もよく応援するようになります。チーム間の力の差をできるだけ少なくしたり、対戦の順番を生徒に考えさせたり、進め方を工夫することが必要です。

